



スイレン

事務所便り

令和6年7月号

特定社会保険労務士・行政書士 重村 勝弘
重村行政労務管理事務所
ご連絡先：〒235-0021
：横浜市磯子区岡村 7-8-15-102
電話・FAX：045-754-3412 携帯:070-5542-1466
E-mail：shigemura.office@etude.ocn.ne.jp

●東京都知事選 7月7日の行方？

今回の東京都知事選挙には空前の56名が立候補した。立候補者の多さにより、候補者の



掲示板が足りない騒ぎが起きている。また、立候補には300万円の供託金が必要、今

回は合計で1億 6,800 万円となる。選挙の結果、有効得票数の合計の10%の得票数を獲得できない候補者は没収されることになる。

選挙の本命は小池氏と蓮舫氏になるだろう。互いに政党色を消そうとしたものの、やはり政党別の支持が基本になるだろう。

情報通は蓮舫氏が出馬、当選した 2022 年の参院選東京選挙区得票数をもとに「小池氏は 289 万票、蓮舫氏は 235 万票」と基礎票を予想している。「基礎票からの上積み、流出が勝負のカギを握ると思います。小池氏にとっては石丸伸二氏や田母神俊雄氏ら、自分に近い保守系候補が出馬表明したことで、票の流出の懸念が出てきています。対して蓮舫氏は、立憲と消費税に対するスタンスが違ふ、れいわ新選組の支持層の投票行動が重要になるでしょう」という。都知事選は今後の政治動向の指標となろう。

●プーチン大統領の北朝鮮訪問



会談するロシアのプーチン大統領(左端)と北朝鮮の金正恩朝鮮労働党総書記(右から2人目)=平壤で 2024 年 6 月 19 日

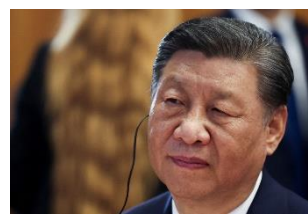
ロシアは、2022 年 2 月にウクライナで「特別軍事作戦」を始めて以降、北朝鮮とかつてないほど

接近してきた。プーチン露大統領の 19 日の訪朝は、その一つの集大成と言える。金正恩(キムジョンウン)朝鮮労働党総書記との会談で新条約に署名し、「同盟関係という新たな水準」(金氏)に到達。露朝はそれぞれの思惑で蜜月ぶりを強調するが、両国と関係が深い中国には複雑な見方がある模様だ。

我が国にとっても、ロシアからの軍事技術が北朝鮮に提供されることによる、衛星技術や軍事技術の北朝鮮への移転は、我が国への脅威の高まりとなり、動向を注視する必要があるだろう。

●南シナ海 フィリピン軍と中国海警局の船衝突

南シナ海で中国本土から遠いフィリピンが実効支配するセカンド・トーマス礁の海域で今月 17 日、フィリピン軍の船が中国海警局の船と衝突し、軍人 1 人が大けが。アメリカのプリンケン国務長官は、フィリピンのマナロ外相と電話会談し、中国側の行動について「地域の平和と安定を損ねる」と非難するとともに、アメリカによるフィリピンの防衛への関与は揺るぎないと強調した。



●尖閣周辺に中国船 185日連続で侵入



沖縄県・尖閣諸島周辺の領海外側にある接続水域で23日、中国海警局の船4隻が航行しているのを海上保安庁の巡視船が確認した。尖閣周辺で中国当局の船が確認されるのは185日連続。日本政府による2012年9月の尖閣諸島国有化後、最長の連続日数を更新した。

第11管区海上保安本部(那覇)によると、4隻とも機関砲のようなものを搭載。領海に近づかないよう巡視船が警告した。

中国は南シナ海、台湾海域、東シナ海と自国領土・領海の拡大を目指しており、我が国としても尖閣諸島の領有を確実にする政策を米国とともに確実にする必要がある。

●レアメタル含む岩石2億トン 南鳥島沖

25年以降採取へ 東大、日本財団が調査結果発表 深海底から採取されたマンガンノジュール

小笠原諸島・南鳥島沖の排他的経済水域 (EEZ) 内の深海底に、レアメタル



(希少金属)を含む球状の岩石「マンガンノジュール」が2億トン以上あることが確認されたと、東京大と日本財団の調査チームが21日発表した。2025年以降、民間企業などと共に商用化を目指した試験採取を始める計画だという。

21日に記者会見した加藤泰浩東大教授は「経済安全保障上、重要な資源だ。年間300万トンの引き上げを目標にしている。海洋環境に負

荷をかけないようにしつつ開発を進めたい」と話した。

チームは今年4～6月、水深5200～5700メートルの海底を100カ所以上調査。遠隔操作型無人潜水機 (ROV) で、約1万平方キロメートルに高密度に分布しているのを確認した。計約2億3000万トンあると推計される。

深海底で高密度に分布しているマンガンノジュール。

マンガンノジュールは、岩石の破片などを核とし、海水などの金属成分が沈着してできる。



資源小国として、長年外国からの輸入に頼ってきたわが国では待望の資源であり、今後太平洋の海底から多くの資源が発見されることが期待される。中国の進出には注意する必要がある。

●日本の海底資源

近年における技術の発展と調査によって、日本の領海・排他的経済水域 (EEZ) の海底に金、銀、銅、亜鉛、鉛、石油、コバルト・リッチ・クラスト、メタンハイドレートなどの豊富なエネルギー資源や鉱物資源の存在が確認されている。

日本の国土面積は、約37.8万km²で世界第60位であるが、日本政府が領有権を主張している領海・排他的経済水域 (EEZ) は約447万km²となっており、世界第6位である。その領海・排他的経済水域 (EEZ) に豊富なエネルギー資源や鉱物資源の存在が確認されている。

海底資源の種別は、一般的に(1)海底石油・ガス(石油・天然ガス)、(2)熱水鉱床(金・銀・銅・亜鉛・鉛)、(3)ガスハイドレート(主にメタン)、(4)マンガン団塊(鉄・マンガン団塊、コバルト・リッチ・クラスト)に分けられている。

日本近海には、海底熱水鉱床、コバルト・リッチ・クラスト、メタンハイドレートに含まれる鉱物資源が豊富に存在しており、300兆円相当の製品価値があるとされている^[1]。

推定賦存量	回収想定量	製品価値 (2005年~2007年の平均相場による試算)
海底熱水鉱床 7.5億トン(約200カ所)	4.5億トン	メタル量: 1.7億トン 地金価値: 80兆円相当
コバルト・リッチ・クラスト 24億トン(約5万km ²)	11億トン	メタル量: 2.2億トン 地金価値: 100兆円相当
メタンハイドレート 12.6兆m ³ (約5万km ²)	4.1兆m ³	メタンガス: 120兆円相当 (LNG熱量等価換算)